



よりよい社会をつくるために

その① 「ごみのしより」を生活に活かす

四年生では、社会科の学習で「ごみの処理の仕組みやその仕事に携わる人々の苦労や工夫について学びます。

五月二十七日、四年生は、有田市役所生活環境課の方から有田市の「ごみのしより」について教えていただきました。本物のパッカー車には、子供達も興味津々で、ゴミが吸い込まれていく様子に見入っていました。

さて、先日、宮崎地区の自治会など各団体の代表の方が集まる「井戸端会議」がありました。そこで、宮崎地区の不法投棄やゴミの分別についての問題が議論され「小学校でもごみの勉強をしてもらえたら地域としてもありがたいなあ」という声もいただきました。

「ごみの学習の目標の一つには、

「地域社会の一員としてごみの適切な処理や再利用に協力しようとする態度を身に付けること」があります。子供達には、学んだことを単なる知識で終わらせず、みんなでもよりよい地域や社会をつくっていくこうとする気持ちをもって、自分自身の生活に活かして欲しいと思います。

その② 税金から社会の在り方を考える

六月三日、六年生では湯浅税務署の方による「租税教室」を実施し、税金が私達の生活を豊かに、そして安心して安全なものにしてくれることを学びました。

子供達も百円のお菓子を買いえば、十円の消費税を払っています。身近な税金から、納税やその使い道に関心を持ち、納税者として社会や国の在り方を考えるきっかけにしてほしいと思います。



ひらめの放流

六月八日、女ノ浦海岸で、湯浅振興局水産課をはじめ、地域の方のご協力を得て、五年生がひらめの放流を行いました。

バケツに小さなひらめの稚魚を受け取った子供達は「わあ、かわいい」と大歓声。膝まで海に浸かり、そつと手から放すと、稚魚は海の中に見えなくなっていました。稚魚の放流は、命の大切さや海の豊かさ、限りある水産資源の保護などについて考えるよい機会になっています。

楽しかった修学旅行

六月十三日～十四日、六年生が奈良・京都への修学旅行に行ってきました。

天気予報では二日目は朝から雨でしたが、雨雲は見学時間を避けてくれたようで、ほとんど傘を使うことなく、楽しく有意義な二日間を過ごしました。

大きな奈良の大仏、黄金色の金閣、驚張りの二条城など、体験を通して感じたことは、きっと、これからの歴史学習への興味を広げ、より深いものにしてくれます。

水の事故に備えて…

六月七日の水難救助訓練では、消防署の方から心肺蘇生法やAEDの使い方を教えていただきました。夏本番を迎えるにあたり、水の事故の危険から子供達を守るため、しっかり備えておきたいと思います。AEDは公共機関だけでなく、コンビニにも備えているそうです。



修学旅行最後の集合写真、最高の笑顔！



二月堂の高さにびっくり！

